



日本ラテンアメリカ学会 会 報



2007年11月20日

No. 94

1. 理事会報告
○第120回理事会
2. 第29回定期大会開催について
3. 研究部会開催案内
4. 国際交流
5. 新刊紹介
6. 事務局から

1. 理事会報告

○第120回理事会

日時：2007年9月29日(土)14:00~15:30

場所：上智大学2号館8階 2-815b会議室

出席者：遅野井、飯島、宇佐見、清水、鈴木、高橋、辻、恒川、畑、幡谷、村上、谷(書記)
欠席者：浅香

<報告事項>

(1)事務局

- ・学会事務センター破産被害者学会連絡協議会の報告書「破産の経緯」が刊行された。
- ・本学会の郵便貯金口座について郵政民営化にともなう手続を完了した。繰越金の運用のあり方について検討することとした。

(2)年報編集：レポジトリによる研究年報の公開の可否について、次回理事会で検討することとした。

(3)国際交流：主に若手会員に対する海外での学会報告等に旅費を支援する制度の創設について、次回理事会に清水理事が原案を提示することとなった。

(4)日本学術会議

- ・地域研究コンソーシアム年次集会「地域分析と技術移転の接点」が11月10日に、翌11日に、日本学術会議地域研究委員会、地域研究コンソーシアム、地域研究学会連絡協議会の共催でシンポジウム「動き出したグローバルCOEプログラム」が、いずれも東

北大学で開催される。両会議には本学会から村上理事が出席を検討する。会員にも周知し参加を促すこととした。

- ・地域研究学会連絡協議会発行のニュースレターに、本学会の活動報告を寄稿するよう要請があったので応じることにした。恒川理事が執筆する。

<審議事項>

(1)第29回定期大会(2008年6月7日(土)、8日(日)予定)について、会場校の筑波大学と共催で開催すること、大会実行委員会を遅野井茂雄、箕輪真理、ネアントロ・サーベドラ(以上、筑波大学)、田島久歳(城西国際大学)、山脇千賀子(文教大学)の各会員で構成すること、学会から50万円の補助を拠出することが承認された。

(2)2008年春に行われる理事選挙に係る選挙管理委員会を牛田千鶴(南山大学)、宇野健也(外務省)、田島久歳(城西国際大学)、箕輪真理(筑波大学)、田島陽一(東京外国語大学)、清水達也(JETRO-アジア経済研究所)の各会員で構成することが承認された。

(3)入会3名、退会2名、準会員1名(Izumi Nozaki)の正会員への変更が承認された。なお入退会者等に対し、会員名簿等個人情報の取り扱いについて注意を喚起することとした。

(4)賛助会員との関係を強化するため、理事長が訪問してニーズを探る、学会の発行する印刷物(大会案内等)への広告掲載のスペースを提供するなどの案が出され、検討することとした。

(5)次回理事会は、2008年2月2日(土)14:00~16:00、早稲田大学で開催される。

2. 第29回定期大会開催について

2008年度の定期大会は、6月7日(土)、8日(日)の両日、筑波大学にて開催します。詳細は次号に掲載しますが、発表希望者は、2月

29日までに、氏名、所属、パネル・個人発表の別、テーマを明記の上、以下までご連絡ください。PC、プロジェクター等機材が必要な場合は、その旨お知らせください。
なるべく、e-mailで送付願います。

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1
筑波大学大学院人文社会科学研究所
箕輪真理研究室気付
第29回日本ラテンアメリカ学会大会実行委員会
e-mail : minowa@dpipe.tsukuba.ac.jp
TEL : 029-853-4335

3. 研究部会開催案内

下記のように各研究部会の研究会が開催されます。皆様奮ってご参加ください。

〈東日本部会〉

日時：2007年12月1日(土) 13:00～16:30
(*開始時間変更)
場所：上智大学2号館10階ポルトガル語学科
共用室1030
発表者および題目：
1.山岡加奈子(JETRO-アジア経済研究所)
「キューバにおけるベトナム型改革の可能性」
2.桑原小百合(財・国際金融情報センター)
「ラテンアメリカの資本市場の現状と課題」
3.陸月規子(拓殖大学他)
「日系移民ジャーナリズムに関する一考察：『週刊プエノスアイレス』を中心に」
連絡先：畑恵子 hata@waseda.jp

〈中部日本部会〉

日時：2007年12月22日(土) 13:30～16:30
場所：愛知県立大学外国語学部棟4階スペイン学科共同研究室
リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車、徒歩4、5分
現在報告者を募集中です。報告者と題目が確定次第、メーリング・リストにてご案内いたします。
連絡先：浅香幸枝
asaka-stella@hkg.odn.ne.jpおよび
asakass@ps.nanzan-u.ac.jp
(2箇所にもメールをお送りください。)

〈西日本部会〉

日時：2007年12月8日(土) 13:30～17:30
場所：京都外国語大学国際交流会館5F京都ラテンアメリカ研究所
http://www.kufs.ac.jp/kufs_new/kenkyuu/latin_fr.html

報告者および題目：

- 1.生月亘(関西外国語大学短期大学部)
「エクアドルの先住民運動と異文化間教育—Interculturalidadの理想と現実」
- 2.杉田優子(東京大学大学院総合文化研究科博士課程)
「エクアドル、シエラノルテのカヤンベコミュニティのバイリンガル教育—地域の教育の発展を可能にするもの」
- 3.村上勇介(京都大学)
「ペルーにおける(全国・広域レベルの)先住民運動の未形成—その政治的背景」
連絡先：村上勇介
ymurakam@cias.kyoto-u.ac.jp

4. 国際交流

1. CELAO (Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía: ラテンアメリカ研究アジア・オセアニア審議会)の第2回総会が6月21日～23日、ソウル(COEX ASEM Hall)にて開催された。24ヶ国から報告者として92名、うち日本からは6名が参加した。韓国-メキシコ間の文化学術交流の層の厚さを反映してか、メキシコからの参加者の存在が目立った。
21日の全体会議「ラテンアメリカとアジアにおける地域統合と地域協力—過去・現在・未来」のあと、21日午後と22日終日、5つのパネル(各パネルは3～4のセッションで構成)が展開された。セッションのテーマは、民主主義、グローバル化、国際労働移動、社会保障、教育などの社会科学分野から、文学、映画などの人文科学分野まで多岐にわたった。私はSession 5-2、“Cinema in Latin America”で報告した。最終日の23日はソウル市内観光ツアーの企画もあった。プログラム構成その他、主催者側の企画運営手腕が光り、良く準備された大会であった。次回は2008年12月に、インド、ニューデリーで開催予定である。
(マウロ・ネーヴェス：上智大学)

2. FIEALC (Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe: ラテンアメリカ・カリブ海研究国際連盟) 第13回大会が、9月25日～28日、中国・マカオ(ホテル・ベネチアン・リゾート・コンベンション)で開催された。プログラムに掲載された報告者は500名以上であった。私は研究発表者、パネル座長、討論者として出席した。プログラムの詳細が開催当日までわからず困ったが、最終日28日のセッションであったため、事前に他の報告者達と十分な打ち合わせをすることができた。Sesión 4-A5, "Globalización y Convivencia Multinacional" (Sachie Asaka: "La política multicultural en Japón y sus perspectivas", Shinya Watanabe: "Grupos étnicos locales en el Tawantinsuyu", Juan Alberto Matsumoto: "La convivencia multicultural en la Argentina-los inmigrantes de los países limítrofes que no estaban incluidos en el crisol de razas-")にて座長をつとめた。「グローバリゼーション」は本国際会議のメインテーマのひとつで、同テーマで10パネルが同時開催された。そのため、報告者以外の参加者をどれだけ呼び込めるかが懸念されたが、キューバ、ブラジル、台湾、マカオ、アルゼンチン、日本からの出席者も得て、多文化共生について活発な比較討論ができた。私たちのパネルは、多文化共生をめざして、国際関係、経済・政治状況に合わせた現実的な政策や概念を研究するもので、その具体性について高い評価を受けた。山田睦男、松下マルタ、ネアントロ・サーベドラ、住田育法、萩原八郎、今井洋子、マウロ・ネーヴェス、長谷川ニナ、アルベルト松本、渡部森哉会員諸氏に他のセッションやレセプションで一緒に過ごした。今回は、ギリシアが会場となり、事務局はUNAMが受け持つことが決まった。(浅香幸枝: 南山大学)

5. 新刊紹介

農文協の「世界の食文化」シリーズ(石毛直道監修、全20巻刊行予定)から、待望の中南米編が出版された(『世界の食文化—⑬中南米』2007年3月15日刊行、291ページ、税込み3,200円)。この巻の責任編集者は中南米の食文化研究の草分け、特にアンデス高地・ペル

ーのジャガイモ研究で知られる山本紀夫である。

ジャガイモはもちろんのこと、トマトやカボチャ、トウガラシを始め、中南米原産の食材が多々あることはラテンアメリカ研究者なら誰でも知っていることではある。だが、古代から現代までの中南米の歴史を「食」を通じてあぶりだすような本書を読むと、あらためてその食文化の多様性と豊かさ、そしてその歴史的起源のおもしろさに驚嘆する。全体は5章から構成されている。第一章でまず編者がトウモロコシ・ジャガイモ・マニオクという中南米の3つの主食の文化史について、紀元前1万年前までさかのぼって概説する。第二章は、マヤ、アステカ、インカという植民地時代以前を代表する3つの文明における祭祀や帝国の権力にまつわる食文化、および植民地時代の宗主国と新大陸間の食材の往来とそれぞれの社会に対する影響について考察する。第三章は、17カ国20地域をとりあげ、各地域の専門家がそれぞれの歴史、風土、祭りなど、社会史と文化研究における確実な知見と生活体験に基づいて独自の食文化論を展開する。自慢の郷土料理とその文化的意味を現代の民の生活をとおして生き生きと描いている。第四章はずばりラテンアメリカの「酒」の文化を追ったもので、美酒に目のない地域研究者にはたまらない考察であろう。それだけではない。「口噛み酒」の伝統やチチャのもつ多面的意味など、ラテンアメリカに根付く伝統的酒の起源と製造法や効用について、目から鱗の論考が続く。第五章では、ブラジル日系人家庭の食生活について詳細に分析されており、日本とラテンアメリカとの間の食文化の交差で締めくくられている。文化人類学や社会学の専門家に限らず、社会科学・人文科学の分野を超えた幅広いラテンアメリカ地域研究者に一読を薦めたい。同時に、ラテンアメリカ地域研究の初学者にとっても、ラテンアメリカの歴史的、文化的魅力に触れる格好の書となろう。カラーページを含む写真や図版も豊富で楽しめる。

筆者はラテンアメリカ人類学者を中心とした総勢25名。編者の山本紀夫をはじめ、青山和夫、荒井芳廣、石塚道子、石橋純、工藤多香子、黒田悦子、榊玲子、柴田佳子、染田秀藤、千葉泉、中牧弘允、古谷嘉章、松下洋、溝田のぞみ、山本誠の各会員も執筆している。

(会報編集委員会)

6. 事務局から

I. 会員関係



II. 会員の仕事など (事務局宛送付分)

- 小林志郎「パナマ運河拡張メガプロジェクト」文真堂 2007年

会費納入のお願い

2007年度の会費を未納の方はお納め願います。なお、会費を連続して2年間、無届にて滞納した場合は、理事会の議決をもって除名することがあります(会則第11条)。2006年度分までに未納がある会員は、未納分を含めてお納め願います。

郵便口座番号：00140-7-482043
加入者名：日本ラテンアメリカ学会

編集後記

昨年は「左傾化ブーム」とでも呼べそうなラテンアメリカ政治の季節だったが、今年はその1年の成果を静かに見守っているのだろうか。コロンビアでは10月末の地方選挙がウリベ第二期後半を占う。アルゼンチンでは、久々に女性大統領の登場である。

地球温暖化の影響か、ほとんど秋らしさを感じないまま11月を迎えた。地球温暖化といえば、バイオエネルギー原料への主食穀物類の生産・輸出シフトが著しく、国内食糧供給を圧迫、価格高騰を呼んでいる。石油の次はトウモロコシやアフリカヤシ(油ヤシ)をめぐる争いとなるのか。森林資源、水資源の確保も自然環境・生態系の変化によって脅威にさらされている。日本ではもっぱらガソリン値上げや食品・日用雑貨の原料価格上昇についての論争がかまびすしい。もちろんわれわれ庶民の生活も圧迫されているのはまぎれもない事実である。しかしその一方、石油埋蔵・採掘地帯に長年住み続けてきた土地権利をもたない労働者が多国籍企業の参入によって、零細農民がアフリカヤシのプランテーション農業開発によって、土地を追われている。そうした声なき人々の生活を、彼岸の私たちのエネルギー消費が脅かしていることを、もっと考えるべきではないか。

12月に研究部会が集中した。会員の皆様の積極的な参加を期待したい。また、ここ数年、会員の意欲的著作出版が相次いでいる。次号以降、順次会報にて紹介してゆく計画なので、どうぞお楽しみに。(幡谷則子)

No.94

2007年11月20日発行

学会事務局

筑波大学大学院人文社会科学科研究科
現代文化・公共政策専攻
遅野井茂雄研究室

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1

TEL 029-853-6534

FAX 029-853-6502

E-mail: osonoi@social.tsukuba.ac.jp